

KEYAK!

11月号

先日、某小学校 1 年生の授業風景を観てきました。そのあと、運動会後の年長のリレー大会も観ました。子どもたちの様子や姿を見て、どちらにも同じような感想と感覚を持ちました。その場面その場面で、彼らは表情にすら出ないいろいろな感情や思いや言い分を持っているのだろうなあ、と。つまりは胸の内です。まあ、何でもかんでも自分の胸の内を言葉に出す人もいないと思いますが。(言葉に出したら胸の内、とは言えないのかな) 私は勝手にそれぞれの子に対して、ああ今、言いたいことあるだろうにみんな黙々と頑張るとるのだなあ・・・と感慨深くなってしまいます。

そんなことを考えていると決まるとあるフレーズが浮かんでくるのです。プロミス いいね、ではありません。

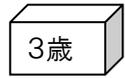
丸い地球の水平線に 何かがきっと待っている
苦しいこともあるだろさ 悲しいこともあるだろさ
だけどボクらはくじけない
泣くのはいやだ 笑っちゃおう 進め!

私がそれを声に出してエールを送りたい気持ちになると、子どもたち自身がそれを声に出して自分と自分たちを奮い立たせて鼓舞して欲しい気持ちになりました。

園ではよく、この幼児期に、子どもたちにどんな印象を残せるか、と言っています。思い出を残すとも少し違いますし、記憶を残すともちょっと違います。懐かしむためではなく、将来何かに気付くために、何かを始めるきっかけになるために、いつか、どこかで、自分を引き出すための潜在的な時期にして欲しいと思っています。いつの日か胸の内から胸の外へ、自分の秘めた可能性がそれぞれの場面で開花しますように。

さらに後日、家で探し物をしていたらホントに偶然、とあるストラップを見つけたのです。こんなことってあるのだな、と。ちなみに同時に身に覚えのない小泉首相のストラップも出てきたよ。これは何か意味が・・・ モノが捨てられないガラクタ王です。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）



- それぞれの思いを出し合いながら、友達と一緒にあそぶ
- ごっこ遊びを通して友達とイメージを共有したり、自分なりに表現を楽しんだりする
- 季節の変化に気づいたり、秋の自然物を使って遊ぶ楽しさを味わったりする



- 友達との遊びを楽しみながら、かかわりを広げていく
- クラス全体でまとまると楽しい遊びや活動を経験し、実感する
- したいことが実現できるように材料や場を選んだり、使い方を工夫したりする



- 互いにアイデア・イメージを出し合ってクラスで共有していく
- 内容や取り組みなど、クラス集団で意見を出し合って共通理解する
- 全体を見渡して、必要に応じて援助し合うことができる